

「一家に一台」から「一人に一台」 ～携帯電話・PHSについてのアンケート調査結果～

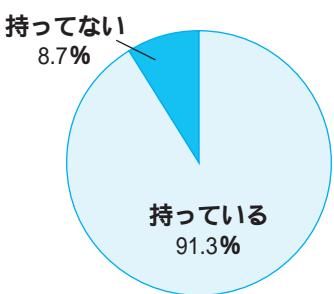
「アンケート実施要項」

調査時期	2001年5月
調査方法	当行営業店を通じて任意の顧客に配布し、郵送で回収
調査対象	福岡県内の在住者2,000人（うち有効回答者数906人）
回答者の内訳	20代 35%、30代 26.7%、40代 25.2%、50代以上 12.7%
	男性 35.9%、女性 63.6%、

携帯電話・PHSの6月末の契約数は全国で6,300万台を超え、3月末の福岡県内の携帯電話・PHSの普及率は55.3%（九州総合通信局調）と発表されています。1995年7月にPHSがスタートして7年、今では「小学生の5人に1人、中学生の3人に1人が携帯を持つ」（週刊ダイヤモンドより）といわれ、携帯を片手に歩く人の姿が日常的に見られるようになりました。そこで、ますます身近になっている、携帯電話・PHSの県内の状況についてまとめてみました。

1. 携帯電話・PHSを持っている人は全体の9割超（図1）

図1 携帯電話所有状況



99年に当行が実施した「情報通信機器に関するアンケート」に比べ所有している人の割合は全体では7.4ポイント増加しました（表1）。割合が高いのは男性ですが、過去2年間の伸びは女性の方が高くなっています。年代別では20代が98.1%とほとんどの人が所有、年代が上がるほど少なくなっていますが、50代以上でも75%以上の人気が持っています。また、一世帯の平均保有台数は2.1台です。

表1 携帯・PHSを持っている人

(%)

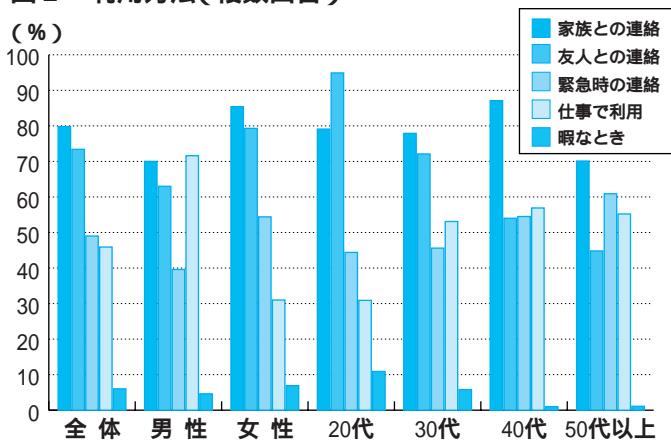
	97年	99年	01年	年代別(01年内訳)			
				20代	30代	40代	50代以上
全 体	71.1	83.9	91.3	98.1	93.3	88.6	75.7
男 性	75.2	86.8	93.2	97.7	97.0	88.5	86.0
女 性	67.1	80.4	90.6	98.3	90.8	88.6	69.4

2. 利用目的の7割以上は「家族・友人との連絡」「仕事」は半分以下

全体では「家族との連絡」が最も多く、次いで「友人との連絡」となっています（図2）。年代別でみると、20代では「友人との連絡」が一番多く9割を超え、特段の用事が

なくても電話をかけている模様です。また、約11%の人は「暇なとき」に電話をかけると回答し、「仕事での利用」は他の年代より20ポイント少なくなっています。年代が高くなるほど利用方法に偏りはなくなっていますが、30代以上では5割以上の人人が仕事で利用しています。なお、年代が高くなるほど「仕事での利用」が増えてきているのは、仕事上の必要性がそれだけ増しているためと思われます。男女で見てみると男性の方が71.6%と多く、女性の倍以上となっています。

図2 利用方法(複数回答)

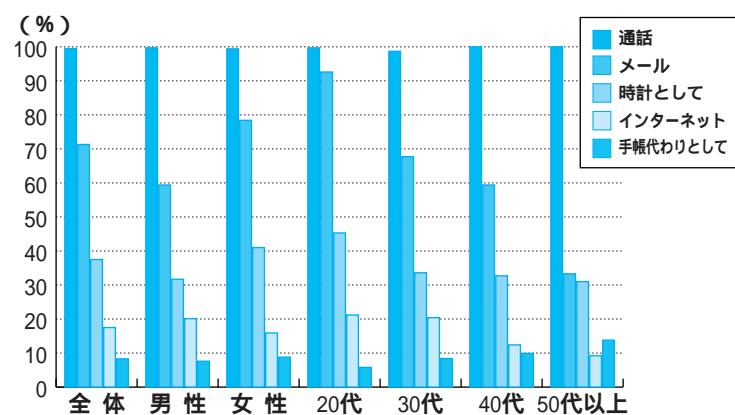


3. 「通話」以外の使用方法は「メール」が中心

全体で約7割の人が使用料の安い「メール」を利用しています(図3)。年代別では20代の9割以上がメールを使い、年代が高くなるほど少なくなっています。ただし、40代でも約6割がメールを使用しています。男女では女性の方がメール利用回数が19ポイント上回っています。1日の平均メール回数5.3回に対して、通話回数は4回で、メール回数

が通話回数を上回っています。メールの方が通話よりも料金が安く、長い文章でも送付可能で、記録に残せ加えて相手は都合のいいときに見ることができるというメリットがあるためと思われます。電話機としての利用以外に40%弱の人が「時計代わり」をあげています。「インターネット」は意外に少なく17.5%でした。

図3 利用方法(複数回答)

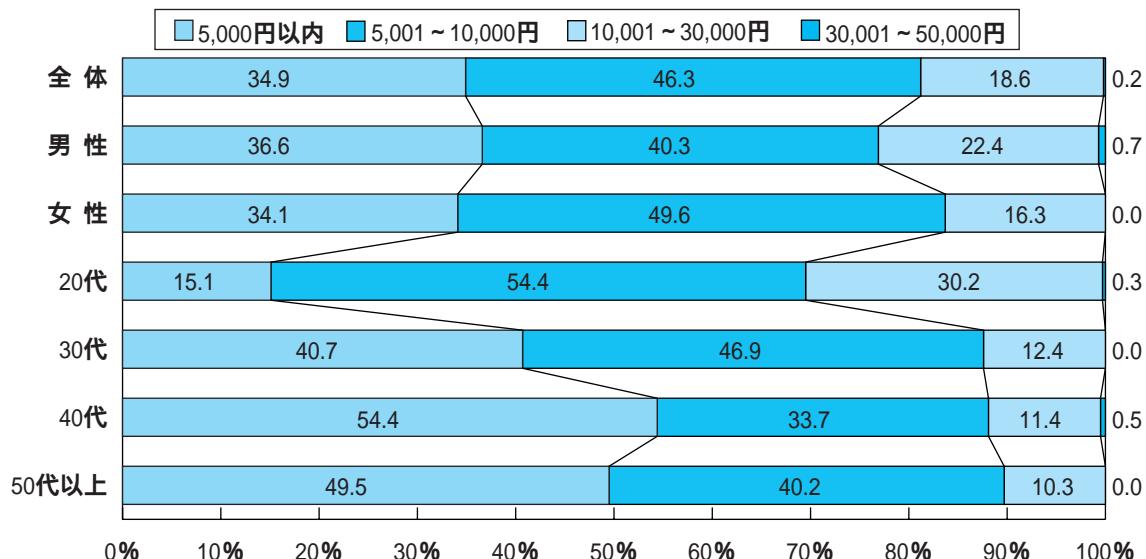


4. 1台の1か月平均電話料金は6割が5,000円以上

1台当たりの電話料金で支払い区分が一番多いのは5,000円超10,000円以下で45.2%、次が5,000円以下で34.9%となっています(図4)。年代別では20代の30%が10,000円超で、他の年代より支払額が高く、30,000円超50,000円以下の人も0.3%います。なお、世帯での電話料は8割以上の人人が30,000円以下で、約5割の人は10,000円超30,000円以下となっています。家計への影響については、「負担になっている」と思う人47.3%、「負担には思わない」人が51.9%と大差はありません。また、年代別で一番負担を感じているのは40

代で51%が「負担に思う」と答えています。これは、家族の分の支払いもあることから、負担感が大きくなっている為と思われます。

図4 1か月の平均電話料(1台)

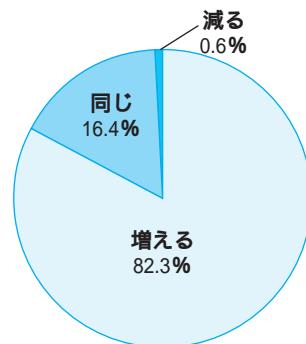


5. 利用は今後も増える

今後の携帯利用については、全体で8割以上の人人が「増える」(図5)と回答し、「減る」という人はわずか0.6%でした。年代別では20代の8割以上は「増える」と答えています。また、「増える」という人の割合が多かったのは50代以上の90.8%、少なかったのは30代の76.5%でした。

通話やメールだけでなくニュースや情報を得たり、携帯ネット通販で物品を購入したり、さらには音楽配信サービス等の利用や次世代携帯サービスが始まるなど、携帯電話の利用はこれから一層加速されるものと思われます。

図5 今後の利用状況



まとめ

現在、携帯電話の所有率は既に9割を超え、家族全員が持っている家庭も少なくなくありません。これから持ちたい、あるいは子供に持たせたいという人もいて、携帯を持つ人は今からも増え続けるものと思われ、「一家に一台」から「一人に一台」の時代になる日は近いようです。また、8割の人が利用回数も増えると回答しているように、いつでも・何処でも・簡単に電話ができ、連絡が取れるということから、携帯電話の利用は増えることが予想されます。一方、携帯電話の利用料金については6割が5,000円以上を超え、全体の約半数の人は負担を感じています。携帯電話料金と家計の関係は見過ごせなくなっているようです。

(松本)